

第2～6時

①準備運動「やってみよう」を行う。

- ボール投げゲームに必要な動きを経験できるようにする。
- ボールのとり方や様々な投げ方も経験させる。



かんたんなゲームをしよう

②めあてを確認する。

- 本時のめあてを意識し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。
- 児童書 (P. 33, 34) を参考に「ゲームの進め方」を確認する。

③活動1を行う。

キャッチボールゲーム

ボールをよく見てとるよ。

うまくキャッチできると楽しそうだね。

フープの 中の 友だちに ボールを 投げたり ころがしたり しよう。

もとに なる ルール

- 人 数…4～6人 (1チーム)
- 時 間…3分間
- とく点…フープの 中の 友だちが キャッチ できた ボールの 数が とく点。

ゲームの すすめ方

- ①かごから ボールを とる。
- ②自分で きめた 線から ボールを 投げたり ころがしたり する。
- ③フープから 出ないように ボールを とる。
- ④とった ボールを かごに 入れる。

シュートゲーム

あい手が いないぞ。チャンスだ。

どうすれば まとに 当たるかな。

ボールをよく見て ひせぐよ。

もとに なる ルール

- 人 数…4～5人 (1チーム)
- とく点…まとに 当てると 1点。

ゲームの すすめ方

- ①かごから ボールを とる。
- ②線から ボールを 投げたり ころがしたり する。
- ③一人 3回ずつ 投げたり ころがしたり する。
- ④せめと まもりを 交たいする。

- ボールを選択して活動する。(痛くないもの、恐怖心が少ないもの。)
- たくさん点が取れる動きを意識できるように声かけを行う。
例「ねらったところにボールを投げることができているのは、だれかな。」
「相手がとりやすいボールを投げるにはどうすればよいかな。」

⑤ 気づいたことやできるようになったことを友だちと伝え合う。

- 得点が入る動きのポイントを出し合い、全体で共有する。児童書に得点を記入する。
- ICT 機器を活用して、身に付けさせたい動きをしている児童を撮影し、全員で共有する。
(相手の正面に緩やかにボールを投げているなど)

1回目	2回目	3回目
点	点	点

⑤共有したポイントを意識してもう一度活動1を行う。

- ポイントを意識しながら、活動できるように助言する。
「〇〇さんの胸に向かって投げられているね。」
「ゆるやかに投げあげるととりやすいね。」

⑥本時のまとめをする。

第6～10時

①準備運動「やってみよう」を行う。

②めあてを確認する。

③活動2を行う。

○ 学習活動のまとめをし、次時の意欲喚起につなげる。

○ ボール投げゲームに必要な動きを毎時間繰り返し、技能の習得に努める。

ルールやせめ方をえらんでゲームをしよう

○ めあてを確認し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。

○ P. 35 の「ルールのくふう」や「せめ方のくふう」の中からルールや攻め方を選んでシュートゲームを行う。



○ 活動1で出てきたゲームの楽しみ方や動きのポイントについて確認する。

○ ボールを持って移動してよいことを説明し、守りにとられないようにシュートできるようにする。

⑤うまくいったことや課題についてチームで話し合い、簡単な作戦を選ぶ。

○ ルールを工夫したことでうまくいったことや課題について、チームで話し合う。

○ P. 35 にうまくいった攻め方を記述する。

○ ICTを活用して、うまくいった攻め方を紹介する。

(守りがいない友達にパスをして得点ができている、守りがいないところに移動してシュートができているなど)

⑥ ルールや攻め方を意識して、再度ゲームを行う。

○ 攻め方がうまくいっているチームを称賛する。

⑦ 本時のまとめをする。

○ 「学習のあしあと」を参考に単元を振り返り、個人・チームの伸びや頑張りを称賛する。

※ 単元初めの児童の様子を撮影しておき、単元終わりの様子と見比べることで個人・チームの伸びを全員で確認しながら評価することができる。

【評価の観点】

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらったところに緩やかにボールを転がす、投げる、的に当てる、得点することができる。 ・相手コートに緩やかにボールを投げ入れたり、捕ったりすることができる。 ・ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースへ移動することができる。
思考力、判断力、表現力等	<p>簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友だちに伝えることができる。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びに進んで取り組んでいる。 ・規則を守り、誰とでも仲よく運動しようとしている。 ・勝敗を受け入れている。 ・場や用具の安全に気を付けている。

【学習を通しての児童の反応，児童の感想】

児童の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・的に当たったり、得点できたりすることでガッツポーズをして喜ぶ姿が見られた。また、その姿を見ている周りの友だちから「ナイス！」などの肯定的な声掛けが生まれていた。 ・簡単なゲームでは、初めボール投げに苦手を感じている児童もいたが、前の線から投げて友だちにパスがわたると、自分から少し遠くから投げてみようとする児童の姿もあった。 ・活動2では、攻め方を選ぶ際に自分のチームのオリジナルの攻め方を作るチームも出てきた。
児童の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめはボールをキャッチするのが怖かったけど、柔らかいボールなら怖くなくなりました。 ・シュートゲームでは、点を入れられてうれしかったです。 ・〇〇さんが「ナイスシュート！」とか「おいしい！」とか言ってくれてうれしかったです。 ・チームの「シュートと見せかけパス作戦」がうまく行って点が取れたのでよかったです。 ・〇〇くんのシュートがとても上手でした。

【「わたしたちの体育」を活用した学習について】

<ul style="list-style-type: none"> ・教師用指導書70～71Pの「展開例」を参考に本単元の学習展開を考えるとともに、児童書33Pのやってみようを毎時間継続して行うことで、ボール投げゲームに必要な技能を少しずつ高めることができた。また、児童書32Pの「ボールのしょうかい」のほかにゴムのボールを使ったり、大きさを変えたボールなどを用意したりすることで、ボール操作が苦手な児童も活動に取り組むことができた。
